



**東京慈恵会医科大学
大学院医学研究科 看護学専攻**

東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 看護学専攻

博士後期課程

■ 博士後期課程：実践開発看護学分野

実践開発看護学分野に、「基盤創出看護学」「先進治療看護学」「予防推進看護学」「地域包括看護学」の4つの専門領域のコースがあります。

基盤創出看護学

先進治療看護学

予防推進看護学

地域包括看護学

基盤創出看護学領域

構成メンバー

教授 田中幸子
教授 佐藤紀子
教授 高橋 衣
准教授 濱田真由美



領域の特長

看護の発展の基盤となる看護制度のあり方を探究するために歴史的経緯を踏まえて保健師助産師看護師法等の立法過程を学修する。さらに看護職者の生涯発達の可能性とその支援方法を検討し、看護師の臨床の「知」の獲得過程を考察する。これらによって、看護の発展的基盤の創出を探究する。

教員の研究テーマ

田中幸子 教授

看護関係法の立法政策過程、占領期の看護改革、オーラルヒストリー
看護師の働き方、看護労働

佐藤紀子 教授

看護師の生涯発達、看護そのキャリア形成とキャリア発達支援、
看護師の臨床の『知』、看護師としての当事者研究の方法論の探究

高橋 衣 教授

子どもの権利擁護、子どもの権利擁護尺度、子どもの権利擁護実践プログラム、
看護基礎教育における倫理教育

濱田真由美 准教授

授乳支援 経験(助産師, 母親) 社会規範 質的研究方法論

先進治療看護学領域

構成メンバー

教授 佐藤 正美
准教授 望月 留加
准教授 永吉美智枝

領域の特長

先進治療を受ける患者や家族と看護師との間で生まれる看護現象を深く洞察し、病状や治療経過を含め、背景にある文脈や文化的背景から考察する力を養う。

看護ケアや看護モデルの開発など、看護実践の開発に関する研究方法を探究し、新たな知の創出につながる研究に取り組む。

研究疑問により選択される研究デザインと研究方法について理解し、量的研究や質的研究のどちらか一方に偏ることなくそれらの基本的方法について修得する。また、看護ケアや看護モデルの開発後の評価に関する方法について吟味し、看護実践開発研究としてさらに発展させる研究能力を養う。独自の視点からテーマを設定し、博士論文を自立して推進するための研究能力を培う。

教員の研究テーマ

■佐藤 正美 教授

手術療法をはじめ、特になん治療中や治療後に生じる機能障害や後遺症を持つ患者や家族に焦点をあて、症状緩和やQOLの向上へ向かう看護実践へのエビデンスを提示する研究や看護実践を導くモデルを開発する研究を計画、実施する過程を学修する。博士論文を作成し、自立して研究を推進できる能力を修得するとともに、教育を担い得る能力と看護学の発展に寄与する能力を養う。

■望月 留加 准教授

がん患者や家族の生活を支援し、生き方を選択していくプロセスに寄り添うために、セルフマネジメントや心理社会的苦痛に対する支援モデルの開発等をケア評価のための指標の開発も含めて研究を行う。また、今後のがん医療・看護に必要な先駆的分野に関わる現象の探求や実践的研究につながる質的研究についても学修し、博士論文を作成し自立して研究を推進できる能力と共に、教育を担い得る能力、看護学の発展に寄与する能力を養う。

■永吉美智枝 准教授

小児がんをはじめとする小児慢性疾病の患児の成人移行期までの成長発達過程におけるこどもと家族の心理と心理社会的課題を捉え、看護モデルの開発に向けた研究を行う。また、乳幼児精神保健を基盤に親子相互作用の観察を通じた親子の関係性の評価スキルを学修し、支援モデルを開発する能力を養う。縦断研究や介入研究の手法を学び、博士論文を作成し、研究者として自立して教育・研究に取り組み、看護学の発展に寄与する能力を養う。

予防推進看護学領域

構成メンバー

教授 小谷野 康子
教授 梶井 文子
教授 松永 佳子



左から、松永,梶井,小谷野

領域の特長

都市に暮らす子育て世代、高齢者ならびにメンタルヘルスの対象者(個別・集団)の特性に応じた健康の維持、疾病予防の推進、健康問題との関連要因を追求する。さらに個人・家族・集団を対象とした支援方法の特性と基盤となる概念及び理論的背景、看護の機能(看護活動の展開過程)とケアシステム構築方法を検討し、研究課題の達成に向けた研究方法を探求する。

教員の研究テーマ

梶井 文子 教授

認知症高齢者、家族への支援方法、ケアシステム開発に関する研究、虚弱高齢者の水分・栄養、ならびに食行動への支援に関する研究、高齢者の転倒予防に関する支援に関する研究、高齢者ケアに関する多職種連携に関する研究

詳細はResearch mapを参照 <https://researchmap.jp/read0197788>

小谷野 康子 教授

地域住民のメンタルヘルス支援モデル構築に向けたプログラム開発と検証、精神科デイ・ナイトケアにおける非包括的弁証法的行動療法の有用性、看護師のEmotional Intelligence向上プログラムの評価

詳細はResearch mapを参照 <https://researchmap.jp/read0123774>

松永 佳子 教授

多職種連携による周産期ケアやプレコンセプションケア提供のためのシステム構築に関する研究、助産師が提供するケアの価値(価格算出)に関する研究、プログラム評価に関する研究

詳細はResearch mapを参照 <https://researchmap.jp/musashiya6348>

地域包括看護学領域

構成メンバー

教授 北 素子
教授 嶋澤 順子



左から 北, 嶋澤

領域の特長

高齢者および精神障害者を含む介護・医療依存度の高い療養者とその家族が、地域の住み慣れた場所で安全に、安心して、その人たちらしく暮らし続ける上での課題について、多角的な視点から考究する。また、在宅療養者とその家族のQOLの向上に資する地域包括ケアシステム、地域医療福祉連携および在宅看護実践の質を向上させるための課題とその解決へ向けた方略を開発・発展させる方法について探究する。

教員の研究テーマ,キーワード等(詳細はResearch Mapをご覧ください)

北 素子 教授

主として認知症高齢者家族への支援、退院支援、要介護高齢者の家族への看護をテーマとした研究

<https://researchmap.jp/motoko-kita-research>

嶋澤 順子 教授

保健師、在宅精神障害者、訪問看護

<https://researchmap.jp/jshimasawa>